

報告事項 ウ

英語によるコミュニケーション能力向上事業の実施について

英語によるコミュニケーション能力向上事業の実施について、別紙のとおり報告します。

令和7年9月8日

鳥取県教育委員会教育長 足 羽 英 樹

英語によるコミュニケーション能力向上事業の実施について

令和7年9月8日 小中学校課、高等学校課

児童生徒の英語学習への意欲の向上と、英語によるコミュニケーション能力向上のため、児童生徒がネイティブスピーカーと実際に英語を使ってコミュニケーションを取る場の創出として、以下のイベントを開催しましたので、報告します。(本事業は令和5年度開始であり、本年度で3年目。)

- ・小学生対象：小学生のための1DAYイングリッシュ
- ・中学生及び高校生対象：Tottori English Challenge Program 2025

1 小学生のための1DAYイングリッシュ

(1) 目的

ネイティブスピーカー等とともに、英語を使いながら様々な活動に取り組むことで、英語によるコミュニケーションの楽しさを感じ、英語学習への意欲を高める。

(2) 会場、開催日時及び参加対象等 (参加人数合計：児童67名、保護者24名)

会場	開催日	参加対象	当日参加者数
米子市文化ホール	令和7年7月25日(金)	小学校5・6年生児童	19名
	令和7年7月26日(土)	小学校3・4年生児童と保護者	20名(親子10組)
鳥取県立福祉人材研修センター	令和7年8月3日(日)	小学校3・4年生児童と保護者	28名(親子14組)
	令和7年8月4日(月)	小学校5・6年生児童	24名

※各会場の定員は30名。(小学校5・6年生は、児童30名。小学校3・4年生と保護者は親子15組。)

※会場について、昨年度までは中部地区を含めた3会場で開催していたが、過去2年間とも中部地区会場での参加者が定員を大きく下回っていたことから、本年度は東部地区及び西部地区の2会場での開催とした。また、西部地区について、昨年度までは大山青年の家で開催していたが、利便性を勘案し、本年度は上記の会場で開催した。

(3) 活動内容

外国人講師(10名程度)や他の参加者とともに、「外国の学校体験!」をテーマに、英語を使って様々な活動に取り組んだ。

<主な活動>

- ① 自己紹介
- ② 4つの異なる科目(家庭科、図工、算数、社会)のブースを設け、グループごとにブースを移動し、その科目に関連したゲームやクイズ等に取り組む

<体験活動例>

- ・The Magical Cooking Pot (家庭科)：世界の食材や料理について学ぶ。
- ・The Amazing English Fashion Contest (図工)：テーマに沿ってTシャツをデザインし、ファッションデザインコンテストを行う。
- ・The Alien Space Rocket Auction (算数・理科)：架空の通貨を使い、為替レートを計算しながら、ロケット船を製作するための部品をオークションで購入する。
- ・Where in the World is Ryokou chan (社会)：タブレットで読んだQRコードの情報をもとに、主人公の訪れた場所を地図上で特定する。

- ③ 外国人講師による、諸外国(アメリカ、フィリピン、オーストラリア、バングラデッシュ、ジンバブエ)の学校生活についての紹介



(体験活動)



(諸外国紹介)



(修了書授与)

(4) 成果と課題及び今後の取組

(成果)

○参加児童及び保護者の満足度が非常に高かった。

「イベントが楽しかった」と回答した児童の割合：96%

イベントへの満足度について、肯定的回答をした保護者の割合：100%

※参加者の感想については、「(5) 参加者感想 (一部)」に記載

○児童生徒向けの英語を使ったイベントを多数企画運営した実績のある業者に委託したことで、児童が、A L Tや他の参加者とともに、楽しみながら英語を使うことができる等、ニーズに沿った質の高い活動を行うことができた。

(課題)

○東部の3・4年生対象の開催日以外は参加希望者が定員を若干下回ったことから、児童や保護者への周知が不十分であったことが考えられる。

(今後の取組)

○本イベントの実施については、紙媒体でのチラシ配布や「マチコミメール」でのお知らせ等、各学校の実態に応じた媒体で、児童保護者に周知している。今後は、県主催の研修会等で本イベントの動画を流す等して、イベントの内容や成果について各学校でのより深い理解を促進し、児童や保護者への着実な伝達を促す。

○県内の関係施設で本イベント開催のチラシを配布したり、県のホームページ等でイベントの写真や参加者の感想を掲載したりして、学校外でも広く周知を図る。

○参加者の確保に向け、今年度同様に利便性のよい会場や、実施日、時間帯など、児童がより参加しやすい方法を検討していく。

(5) 参加者感想 (一部)

- ・色々な教科の体験ができて良かったし、英語が楽しめて良かったです。(小学校3年生児童)
- ・最初は緊張したけど、外国の人と英語で会話するのが前よりも楽しくなりました。(小学校4年生児童)
- ・算数や理科はとても難しかったけど、「できるようになりたい」と思ったので頑張りました。(小学校5年生児童)
- ・最初は緊張したけれど、グループでゲームをしたりカードゲームで遊んだりしていくうちに、とても楽しくなりました。ゲームをするにつれて英語が出てくるようになりました。(小学校6年生児童)
- ・子どもが英語をどんどん使おう、聞こうとする姿が見られて、嬉しかったです。(保護者)
- ・普段、たくさんの外国の方と一度にコミュニケーションをとる機会がないので、とても刺激的で良い経験になりました。(保護者)

(6) その他

- ・外部委託事業として実施(委託業者:株式会社インタラック西日本)
- ・委託業者から派遣された外国人講師以外に、県内A L Tのべ6名が当日の運営に協力
- ・参加費無料

2 Tottori English Challenge Program 2025 (中学生及び高校生対象)

(1) 目的

3日間にわたり目的別のレッスンを受講し、外部ネイティブ講師や外国語指導助手(A L T)等のネイティブスピーカーの支援を受けて、英語のスピーキング力を高める。

(2) 会場及び開催日時

会場: エースパック未来中心(倉吉市)

日時: 令和7年8月9日(土)、10日(日)、11日(月) ※午前10時から午後3時45分まで

(3) 参加者数(人)

コース	プレゼンテーション	ディベート	ディスカッション	ドラマ・スキット	合計
中学生	3	1	3	12	19
高校生	3	5	5	5	18
合計	6	6	8	17	37

(4) 活動内容

4つのコース(プレゼンテーション、ディベート、ディスカッション、ドラマ・スキット)別のグループに分かれて、3日間にわたってそれぞれのスキルを高め、最終日にコースごとで成果発表を行った。

<コースごとの主な活動>

① プレゼンテーション

- ・プレゼンテーションの基礎知識(大切な10のルール、良いプレゼンテーションの特徴、フレーズの練習)
- ・グループ・プレゼンテーションの準備(テーマ決め、役割決め、アウトライン決め、スライド作成)

② ディベート

- ・ディベートの基礎知識(ディベートのルール、ディベートを行うことの意義、フレーズの練習)

- ・ディベート技術の向上（ミニ・ディベート、ディベートルールに沿った練習）

③ディスカッション

- ・ディスカッションの基礎知識（ディスカッションを行う際の役割、ディスカッションをスムーズに行うポイント、フレーズの練習）
- ・ディスカッション練習（アウトプットの練習、意見の伝え方と必要な情報の整理、質問への準備）

④ドラマ・スキット

- ・ドラマ・スキットの留意事項（ドラマ・スキットをスムーズに行うためのポイント、ドラマ・スキットの練習の仕方）
- ・オリジナルドラマ・スキットの準備（スキットの人物になりきって演じる、語彙やフレーズの練習、オリジナルドラマの台本作成）



（プレゼンテーション）



（ディベート）



（ディスカッション）



（ドラマ・スキット）

（5）成果と課題

（成果）

- プログラムへの満足度が高かった。

「とても満足」と回答した生徒の割合：79% 「満足」と回答した生徒の割合：21%

- 英語学習への意欲が高まった。

アンケート質問「英語学習をより頑張ろうと思いましたか？」

「とてもそう思う」と回答した生徒の割合：78% 「そう思う」と回答した生徒の割合：19%

- 英語力についての自己認識に変容がみられた。

アンケート質問「この3日間で英語力が向上したと感じますか？」

「とてもそう思う」と回答した生徒の割合：41% 「そう思う」と回答した生徒の割合：53%

- 英語力だけでなく、内面的な成長も見られた。

アンケート質問「この3日間で新しく学んだことや発見したことは何ですか？（自由記述）」

- ・失敗を恐れず話すことは大切だと感じました。頭の中で英語に変換するのはとても難しかったです。
- ・恐れずに英語を使うことや感情ものせて言うことが学びました。
- ・表現力。ディスカッションで仲間と話すときの言葉や身振りなどを知ることができました。

（課題）

- プログラムの周知不足等のため、参加者の学校に偏りが見られた。

- 開催地区以外の生徒や、部活動に熱心に取り組んでいる生徒にとって、3日間会場まで通うことに負担感が大きい。

（今後の取組）

- 学校を通じた周知だけでなく、ALT（ESS 部所属の生徒等へ周知）やホームページ等での情報提供を積極的に行う。
- 開催地区や時間設定の変更、開催地までの借上げバスによる送迎など、生徒が参加しやすい開催方法を検討する。

（6）参加者感想（一部）

- ・学校では自分から考えを発信しないタイプですが、今回は全力で楽しめました。日常生活がこの3日間で変わったように感じます。（中学生）
- ・たくさんの人と関わることができて、とても楽しかったです。最初は緊張したけど、今は終わってみんなと別れるのがとても寂しいです。（高校生）
- ・将来は必ず海外の方と一緒に接することができる仕事に就きたいと思えました。（高校生）

（7）その他

- ・外部委託として実施（委託業者：ステップフォワード株式会社）
- ・県内ALTのべ32名がイベントの運営に協力
- ・参加費無料